



ビギナーから一歩踏み出す映像制作

金沢学院大学 芸術学部芸術学科 准教授 越田 久文



准教授 越田 久文

私は以前、コマーシャルを作るプロダクションに20年ほど在籍し、テレビコマーシャルやテレビ番組の制作に関わっていました。その当時は、動画を撮るのは「プロ」で、素人では扱えないような高い機材を使って撮影をしていました。今では撮影する機材も小さくて手軽で性能も良くなり、そのままニュース映像に使っても何の遜色も無い映像を気軽に撮影できるようになりました。また、誰でも動画をインターネットで公開し、高解像度のきれいな映像をどこでも観ることが出来るようになりました。

今回は、「素人」からほんのちょっとプロに近づくための「コツ」を、いくつか紹介したいと思います。

○シロウトくさい映像の特徴

ビギナーが撮影したビデオ映像では、「シロウトくさい」と思わせる映像の特徴と言うものがあります。それをいくつか紹介します。

・やたらとズームやパンを使う。映像が安定しない。

無駄なズームやパンなど、安定しない映像は、見ていると「酔って」しまいます。

プロは、必要のないところではズームやパンは行ないません。ズームやパンを行なうのは、それは「ズーム」や「パン」を行なう意味と価値がある、必要があるから行なうのです。

・1カットが短い。カットの始めと終わりに余裕が無い

何かをパッと3秒ほど撮って、また違うものを3秒ほど撮る。これを編集し繋げると、とても「せわしない」映像になります。安定しない短いカットが次から次へと切り替わる映像は、素人映像の特徴的なものです。

・サイズ（フレーミング・構図）がワンパターン

編集にも「リズム」「強弱」があります。映像の基本は「寄り（アップ）」「引き（ロング）」の繰り返しです。「寄り」「引き」のカットが適度にテンポよく配置されているのが、良い編集映像です。アップのカットばかりが続くと、見ている方は窮屈になります。

ですので、撮影するときは後々編集することも考慮し、いろんなバリエーションの構図のカットを考えて、撮っておく必要があります。

・編集で、意味なくワイプやページめくりなどのエフェクトを使う

カットとカットをつなぐ時に使う切り替え効果（トランジションエフェクト）ですが、最近の編集ソフトはいろんな効果が使えるため、むやみやたらと使う人もいます。しかしこれも、プロは「意味がある」から使います。

「ワイプ」や「ページめくり」のエフェクトは、映像文法的には「シーンが変わる」合図です。これが意味なく入っていると、見ている方は混乱します。私たちはどんな映像であれ「映像の意味」を読み解こうとして見えています。

無駄なエフェクト、ズーム・パンなどは、見ている人を混乱させるだけです。止めましょう。

・テロップのフォントがダサい。

テロップに使うフォントは、太いゴシック体が基本です。奇をてらったフォントや明朝体フォントを使うと、一気にシロウトくさくなります。

・撮影した映像を全部使おうとする。

使わなくても良い余計なカットまで入り込み、見ている人は疲れてしまいます。「編集する」ということは、「作品として化粧をする」ということですから、できるだけ「意味のあるカット」だけが残るようにして下さい。

○ビギナーから一歩踏み出す映像を作るには？

以上に挙げたことを行なうと「シロウトくさい」ということは、これらをやらなければ良い、ということになります。

・出来るだけカメラを固定して（三脚を使って）撮る。

カメラのフレームを「額縁」とすると、被写体は「絵画」としてとらえられます。この中の絵が動くのが「動画」です。例えばカメラを「パンする」行為は、この額縁が動く、ということになります。

カメラと被写体の関係は、次の4つになります。

①カメラ:固定…被写体:固定	②カメラ:固定…被写体:動く
③カメラ:動く…被写体:固定	④カメラ:動く…被写体:動く

動画は、多くは②の関係で撮ります。演出意図が無い限りカメラは「固定」です。「額縁」がピシッと決まった状態で映像が安定し、視聴者がいちばん見やすく、「額縁」の中の「動き」を集中して見られるからです。

そのためには、出来るだけ三脚を使って撮影して下さい。無理なら自身の身体を安定させ「人間三脚」となって、カメラを固定して撮影しましょう。

・1カット最低10秒は撮影する。

実際には3秒しか使わないとしても、カット前後の「のりしろ」を作るため、10秒以上は撮影して下さい。

・パン・ズームはRecボタンを押してすぐに始めない。

始めと終わりに、最低3秒の静止部分を付けてください。

・背景を考えて撮る。

・「カット割り」を考えて、複数カット撮る。

常に「被写体と背景との関係」を考え、1つのシーンを2カット・3カットの後編集でその情景を再現することを考えて構図を変えてアップ・ロングで撮る。また良い画が取れるまで我慢して録画する。それが「脱ビギナー」の第1歩ではないかと思えます。

〔平成 28 年度視聴覚セミナー講演より要約〕



平成 28 年度石川県視聴覚教育協議会の活動について

石川県視聴覚教育協議会は、本県の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的とし、県及び市町教育委員会の視聴覚教育担当部局をもって組織され、視聴覚教育に関する研究奨励及び指導者研修、学習情報の交換のための事業等を行っています。

平成 28 年度の活動内容を紹介します。

平成 28 年度総会・視聴覚セミナー

○平成 27 年度 役員一覧

会 長	近藤 繁彦	石川県立生涯学習センター館長	監 事	恫谷 英恵	金沢市	
副会長	小西 俊明	能美市生涯学習課長	“	福松 正美	津幡町	
理 事	山崎 勇	白山市	参 与	篠原恵美子	石川県教育委員会生涯学習課長	
“	岡田 悠里	かほく市	事務局	事務局長	石野 周	生学セ・学習情報グループリーダー
“	奥 利明	羽咋市		事務局員	山本 孝志	生学セ・学習情報グループ
“	田中 洋伸	穴水町		“	吉田 秀子	“
“	浅川理佳子	石川県教育委員会生涯学習課				

平成 28 年 6 月 21 日（火）、石川県本多の森庁舎において平成 28 年度総会が開催されました。

総会では、議長に県生涯学習課の浅川理佳子氏を選出し、議案審議の結果、平成 27 年度事業・決算及び平成 28 年度事業計画・予算案が承認されました。

総会に引き続き視聴覚セミナーとして、金沢学院大学 芸術学部芸術学科の越田久文准教授による講演「ビギナーから一歩踏み出すビデオ講座」を実施しました。



情報技術活用研修会

各市町において実施される、「IT講習」等の情報技術活用を目的とする研修会です。

平成 28 年度は、次の 4 市で実施されました。

実施主体	研 修 会 名 (内 容)	開催日 (期間)	場 所	受講者数 (延べ)
金 沢 市	PCスキルアップ研修 (市内小中学校、保育園等の教職員のエクセル・ワード等の研修)	平成 28 年 6 月 15 日 ～7 月 2 日	金沢市 教育プラザ富樫	125 人
珠 洲 市	珠洲チャレンジ大学 パソコン講座 (パソコン初心者の方を対象とした基本操作からの講座)	平成 28 年 7 月 25 日 ～8 月 5 日	すず市民 交流センター	59 人
小 松 市	芦城公民館 パソコン教室 (パソコン初心者の方を対象のワード、エクセル等の講座)	平成 28 年 6 月 8 日 ～10 月 26 日	小松市芦城センター	69 人
能 美 市	能美市寺井地区公民館実施 パソコン講座 (市民対象のパソコン初心者向けの入門講座など 6 講座)	平成 28 年 5 月 14 日 ～11 月 26 日	能美市 寺井地区公民館	63 人

ICT (情報技術) 活用講座

当協議会が、市町や学校・団体等の視聴覚担当者、学習担当者、公民館職員などを対象に行う講座です。

第 1 回 「学び直してスキルアップ! Microsoft®Word2013 使いこなし講座」

開催日時：平成 28 年 11 月 15 日（火）9:30～16:30

講 師：Office アシスタント 山川 広美 氏

会 場：石川県本多の森庁舎パソコン室

参加者：公民館、保育園・こども園職員 8 名

平成 28 年度は、受講者がより参加しやすくなるよう、日程を前年度までの 4 時間×2 日から 6 時間×1 日に見直したこともあり、例年より多くの方が受講されました。



第 2 回 記念講演会の実施

日 時：平成 29 年 3 月 10 日（金）13:30～14:30

会 場：石川県本多の森庁舎 2 階第 3 会議室（「いしかわビデオ作品コンクール」記念講演）

詳しくは「平成 28 年度（第 47 回）いしかわビデオ作品コンクール」の項をご覧ください。

県民映像カレッジ

広く一般県民の皆さんに、映像作品制作に興味をもってもらい、ビデオの撮影・編集の技術を学んでいただく講座です。(石川県民大学校 情報・科学コース講座)

なお、この講座は、生涯学習センタービデオクラブ（SVC）の協力のもと実施しています。

場 所：県立生涯学習センター県民大学校教室ほか

講 師：岡野 重和 氏 ほかSVC会員の皆さん

開催日：1期…平成28年6月25日～7月23日の間の5日間
(毎週土曜日 10:00～16:00、3日目のみ 10:00～12:00)

2期…平成28年9月24日～10月22日の間の5日間
(毎週土曜日 10:30～16:15、3日目のみ 10:30～12:15)

参加者：1期…12名、2期…7名



カメラワークの基本といった撮影技術の基礎から、作品構成の基本的ルール、編集における絵つなぎのルール、編集ソフトの操作方法といったものを、2～4名のグループごとでの作品制作を通じて学んでいただきました。

また平成28年度は、受講層の拡大と実習内容の充実を図るため、土曜日の午前から開講する各期5日間の日程としました。

受講生たちは、岡野講師による講義を受けた後、サポートスタッフであるSVC会員の指導のもと、あらかじめ示されたシナリオに基づきグループごとに撮影とパソコンでの編集作業を行い、映像作品づくりの課題に取り組みました。

最終日には完成した作品をサポートスタッフを含めた全員で鑑賞し、講評を行いました。受講生は、講師をはじめSVC会員の皆さんから、たくさんのアドバイスを受け、充実した講座になりました。

受講された皆さんが講座の成果を発揮し、地域の映像記録に力を発揮され、多くのビデオ作品が制作されることを期待します。

全国大会レポート

第20回視聴覚教育総合全国大会・第67回放送教育研究会全国大会合同大会 (東京大会)に参加して

石川県立生涯学習センター 学習情報グループ 主幹 山本孝志

平成28年11月18日・19日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターほかにおいて、第20回視聴覚教育総合全国大会・第67回放送教育研究会全国大会合同大会(東京大会)が開催された。

1日目の分科会では、「地域の映像コンテンツのデジタル化促進と課題」のテーマのもと、千葉県からは「千葉県のデジタルアーカイブの取組」(過去の教育放送番組の活用)が、茨城県からは「茨城県の実践実例：日立市視聴覚センターの実例」(YouTubeを用いた郷土映像の発信)が、高知県からは「貴重史料の管理と活用の課題～16ミリフィルムのDVD化～」(昭和初期から昭和30年代の貴重なフィルム映像のDVD化)が報告され、それぞれの課題が話し合われた。

コーディネーターの全視連専門員 丸山裕輔氏(新潟県五泉市立五泉小学校教頭)からは、ICTメディア研究部会の「地域映像のデジタル化の現状、全国の視聴覚センターでのデジタル化の様相・課題」の調査研究の取組みについての報告があった。

また助言者の吉田広毅常葉大学教授からは、①デジタルアーカイブの内容の変遷(「パッケージ(DVD)保存」からHDD・ネットワーク上での保存、さらにクラウド上でのWebアーカイブ保存やYouTubeなどの動画投稿サイトでの保存、など)、②デジタルアーカイブの利点と課題(利点：コンテンツの劣化防止、複製・バックアップが容易で劣化がほぼ皆無、発信が容易、など/課題：記録フォーマットの陳腐化、コンテンツ所在の不明化、コンテンツの信頼性、保管容量、内容の評価、提供方法、利用促進方法、著作権・知的財産権の問題、など)、③デジタル化したコンテンツの可能性、などについてのお話があった。

2日目の研究交流では、一般・OB部門の講演「心をつなぐコミュニケーション～「話す力」「きく力」～」(講師：元NHKアナウンサー、NHK放送研修センター日本語センター専門委員 風見雅章氏)を聴講し、コミュニケーションの重要性について認識を新たにした。

この大会を通じて、各地に、かつて自主制作した記録映画や放送番組などの貴重な地域映像があり、これらのデジタルアーカイブ化及び活用・発信について、それぞれの地域が工夫をこらし取り組んでいることがわかった。

なお当センターでは、社会教育センター時代に自主制作した郷土を取り上げた記録映画をDVD化し、県民への貸出や一部のインターネット配信などを行なっている。また、「いしかわ大百科」などの放送利用講座の過去のものもDVD化し貸出を行なっているので、県民の皆様にごひとも活用していただきたい。

平成28年度（第47回）いしかわビデオ作品コンクール

共催：石川県教育委員会
 後援：石川県小中学校視聴覚教育研究協議会
 石川県高等学校視聴覚教育研究会
 石川県社会教育協会／石川県公民館連合会
 募集期間：平成28年10月31日(月)から
 平成29年2月3日(金)まで
 募集部門：①教材部門、②一般部門の2部門

今年度は、①教材部門5作品、②一般部門10作品、計15作品の応募がありました。

審査会は、2月16日(木)13:30より、県立生涯学習センターにて行われました。3時間に及ぶ審査の末、右のとおり各賞が決定しました。

表彰式は、3月10日(金)15:00より、石川県本多の森庁舎2階第3会議室にて行われました。

約50名の出席者のもと、石川県視聴覚教育協議会長、石川県教育委員会、石川県社会教育協会、石川県公民館連合会長より、受賞者へ各賞の表彰状授与が行われました。

表彰終了後、各部門の講評並びに最優秀賞・優秀賞受賞作品の上映を行い、表彰式は終了しました。

受賞された皆様、おめでとうございます。



石川県教育委員会賞の表彰

なお、受賞作のうち受賞者の了承を得られた作品については、石川県生涯学習情報提供システム「あいあいネット」で公開しておりますので、ぜひご覧ください。

記念講演会（第2回 ICT活用講座）

表彰式に先立ち、13:30より、北陸朝日放送(株)報道制作局ディレクター 中川 紘 氏を講師にお招きし、「もっと伝わる！ビデオの撮り方、つくり方」と題して記念講演会を実施しました。

現役のテレビマンである講師からの、実際の番組映像を用いた映像制作のポイントについての講話に、コンクール受賞者のほかビデオ愛好家の方々が熱心に耳を傾けていました。

審査委員

審査委員長	棒田 邦夫	金沢学院大学 芸術学部芸術学科教授
審査委員	浅川理佳子	県教育委員会生涯学習課
"	近藤 繁彦	県立生涯学習センター館長

審査結果

①教材部門		
最優秀賞 (石川県教育委員会賞)	五郎島金時作りの一年	久村 勉(金沢市)
優秀賞 (石川県社会教育協会賞)	県工2016	石川県立工業高等学校
奨励賞	関心あるかな？ 自分の歯！	小松市立松陽中学校 生徒会保健委員会
"	生徒会全校企画「美川中の象徴となる校歌を元氣よく歌おう」	白山市立美川中学校
"	鳥越城跡散策	藤平田友市(金沢市)
②一般部門		
最優秀賞 (石川県教育委員会賞)	三角 四角 丸	小林陽治(金沢市)
優秀賞 (石川県公民館連合会賞)	残したい門前町 井波	小屋忠男(金沢市)
奨励賞	錦秋の華やぎ	森本重雄(金沢市)
"	風呂敷あれこれ	小林恵子(金沢市)
"	戦場に架ける橋 (泰麺鉄道)	西上 章(金沢市)

☆☆☆ 審査講評 ☆☆☆

今回の受賞作品は両部門ともに、撮影技術、録音・ナレーション技術が特に優れていました。その中で最優秀賞・優秀賞の決め手となったのは、素材をうまく撮り、編集した構成力とデザインコンセプトでした。

教材部門の『五郎島金時作りの一年』は、五郎島金時の細かい配慮がされた映像に質の高さを感じました。『県工2016』は、1年の行事を5分32秒という時間内にうまくまとめた編集性が評価されました。一般部門の『三角 四角 丸』は優れたデザインコンセプトが、『残したい門前町 井波』は井波の特徴を生かした映像表現が、高く評価されました。

審査委員長 棒田 邦夫 (金沢学院大学教授)

===== 石川県立生涯学習センターからのお知らせ =====

石川県生涯学習情報提供システム「あいあいネット」で動画配信中！ぜひご覧ください。

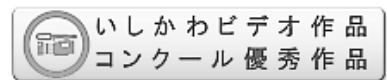
「昭和のいしかわ」を知る 12 作品



ふるさとモット学び塾



H27・H28 年度優秀作品を公開(一部)



☆「あいあいネット」へのアクセスは… <http://inet.pref.ishikawa.jp/>もしくは で

(PC・スマートフォンでご覧ください)

お問い合わせ先 石川県立生涯学習センター学習情報グループ TEL 076-223-9573 FAX 076-223-9585